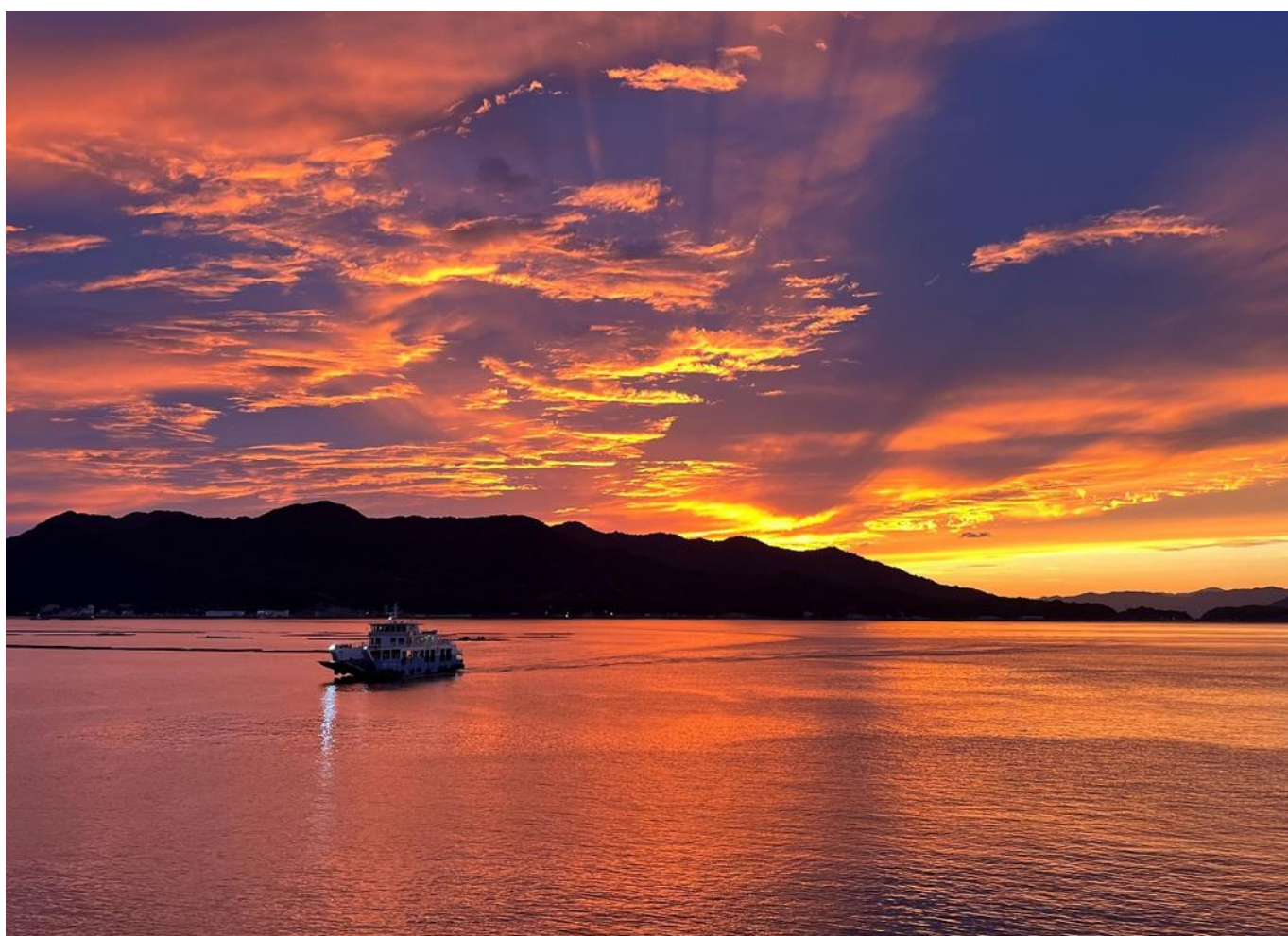


R C 報告書 2026

Responsible Care Report



中国化薬株式会社

目次

	頁
会社概要	2
ごあいさつ	3
環境・安全の理念と基本方針及びR Cに関する方針	4
R C活動推進体制	5
R C活動の実施状況	
2025年度R C活動の目標・実績・評価	6
R C活動への取組	
マネジメントシステム	7
環境・安全査察	
R C内部監査	
I S O 1 4 0 0 1 外部審査	
環境保全	9
主な環境負荷（2025年度実績）	
環境投資	
省エネルギー、C O ₂ 排出量削減	
化学物質の排出量削減（P R T R）	
大気汚染、水質汚濁の防止	
産業廃棄物の削減	
保安防災	13
保安防災訓練	
保安防災投資	
労働安全衛生	14
労働安全衛生活動	
健康管理	
物流安全	15
化学品・製品安全	
化学品・製品による災害の防止	
製品の安全確保と品質保証	
関係者への環境・安全情報の提供	
サイト環境活動	16
江田島工場の活動	
吉井工場の活動	



「夕映えの海とマイト丸 ― 穏やかな航跡 ―」

本社からみえる景色です。

刻々と色を変える夕映えの中、マイト丸が穏やかな水面にやさしい航跡を描きながら進んでいて、「綺麗だなあ」と思い本社から撮影しました。

撮影者 : 坂田幸美（本社）
撮影日 : 2025年10月

会社概要

【社 名】	中国化薬株式会社
【資本金】	2 9 7 百万円
【創 業】	1 9 4 7 年（昭和 2 2 年）3 月 2 8 日
【売上高】	1 6 9 億円（2 0 2 5 年度）
【本 社】	〒737-8507 広島県呉市天応塩谷町 1 番 6 号
【事業拠点】	本社（広島県）、東京支店 江田島工場（広島県） 吉井工場（群馬県）
【従業員】	5 1 9 名（2 0 2 6 年 8 月 1 日現在）
【主な営業種目】	防衛火工品、産業火薬品、工業製品、 医薬品の製造及び販売



R C 活動対象組織

本社、東京支店、江田島工場、吉井工場

※環境負荷データの集計対象：江田島工場、吉井工場

対象期間

2 0 2 5 年 4 月 2 1 日～2 0 2 6 年 4 月 2 0 日

（一部 2 0 2 6 年 4 月 2 1 日以降の情報を含みます）

R C（レスポンシブル・ケア）とは

「化学物質を製造し、または取り扱う事業者が、自己決定・自己責任の原則に基づき、化学物質の開発から製造、流通、使用、最終消費を経て廃棄に至る全ライフサイクルにわたって、環境・安全・健康を確保することを経営方針において公約し、そのための施策を実行し、改善を図って行く自主管理活動」のことです。

ごあいさつ

2026年7月に発生した熊本地震により被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復旧・復興を心よりお祈り申し上げます。

近年、自然災害が頻発する中、企業には日頃からの安全管理の徹底と災害への備えがこれまで以上に求められています。

当社は、火薬類の製造を基盤とする化学工業分野で事業を展開しており、安全の確保と保安防災の徹底を経営の最重要課題としています。

また、これらは社会に対して果たすべき重要な責務であると認識しています。当社は、「安全はすべてに優先する」「環境保全は企業の責務である」という理念のもと、安全性のさらなる向上と環境保全の推進に真摯に取り組んでまいりました。

これらの活動を計画的かつ効果的に推進するため、2003年5月に日本レスポンシブル・ケア協議会（現 日本化学工業協会RC推進部）へ入会し、RC活動を開始しました。また、2004年には環境マネジメントシステム（ISO14001）の認証を取得し、環境保全、保安防災、労働安全衛生、物流安全、化学品・製品安全、社会との対話などの分野で継続的な改善を進め、着実に成果を上げております。

2025年度は、「安全文化を根付かせる」をRC方針に掲げ、保安防災水準の一層の向上に取り組みました。特に、保安スタッフの能力向上を重点課題とし、過去の火薬事故事例について原因や対策、そこから得られた教訓を改めて検証し、現場へ展開しました。また、現場巡回を通じて異常を早期に発見する力の向上にも努めました。

その結果、5S活動の実施方法や実施頻度、課題が明確になるとともに、過去の事故から学び、教訓を共有する活動においても一定の成果を得ることができました。今後もこれらの取り組みを継続し、さらなる保安防災水準の向上を目指してまいります。

一方で、気候変動や異常気象の要因とされる地球温暖化への対応も、企業として重要な経営課題であると認識しています。当社では、廃棄物の削減、省エネルギーの推進、脱炭素化を重点課題として位置付けています。2025年度は、老朽化したエネルギー消費設備を省エネルギー型設備へ更新するとともに、照明のLED化を推進しました。また、設備ごとの電力使用量や稼働時間を把握し、無駄を排除することで省エネルギー活動を進めています。

今後は、生産体制の強化に向けた設備・人員の増強を進める中で、有機溶剤や重油の使用量削減をはじめとした環境負荷低減策を計画的に推進してまいります。これらの活動を通じて、環境パフォーマンスの向上、環境コストの削減、さらには経営効率の向上につなげてまいります。

本報告書は、2025年5月から2026年4月までの1年間の活動内容を取りまとめたものです。

ご一読いただき、皆様からのご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いです。

2026年9月



代表取締役社長
神津 直

経営の信條

- 一、火薬類の製造を基幹とし化学工業を行う。この作業は危険あり然も大なる利潤は期待し得ないが誰かが担当せねばならぬ重要な仕事である。我社は之を安全に遂行する事を誇りと観じ本事業を通じて国家の進運に貢献しつつ社運の発展を期す。
- 一、全従業員が一致団結して各その配置に於いて任務を楽しく遂行し以って自己のこの世に生を享けた喜びを満喫できる会社とする。

環境・安全の理念と基本方針及びR Cに関する方針

環境の理念

「環境保全は企業の責務である」

地球環境を保全し、地域社会との共存共栄を図ることが企業の重要な使命であることを認識し、企業活動のすべての面で人と環境に調和した活動を行う。

環境の基本方針

1. 「環境への配慮は企業の使命である」を基本に行動する。
2. 環境マネジメントシステムの構築と継続的改善を図る。
3. 教育訓練による全従業員の環境意識の向上を図る。

安全の理念

「安全は全てに優先する」

企業の使命を守り、今後とも健全な形で存続していくためには、心身ともに安心して働ける職場であること、また安全を保つことにより、地域社会と調和を保つことが大前提である。

安全の基本方針

1. 安全の確保は企業存立の基盤である。
2. 「すべての事故は防止できる」との信念のもとに安全を確保する。
3. 安全は自分自身のためであり、「定められた事は必ず守る」を基本に行動する。

R Cに関する方針（2021年10月改訂）

中国化薬株式会社は、環境保全および安全と健康の確保が企業の責務であることを認識し、以下のとおり方針を定め、着実かつ継続的にRC活動を行います。

※当社は、企業活動を通じてSDGs（持続可能な開発目標）に取り組んでいます。各RC活動が貢献する目標をアイコンによって示します。

（1）目標・方策の明確化と周知徹底

環境保全および安全と健康の確保のための活動を継続的に向上させるため、具体的な目標、方策を「RC活動中期計画」および「年度RC活動実施計画書」に定めて全社員に周知徹底する。

（2）環境負荷の低減



製品の全ライフサイクルにおいて環境負荷の少ない業務を推進するため、廃棄物排出量の削減、省資源・省エネルギー活動の推進、有害化学物質使用量の最小化を行う。

（3）保安防災水準の向上



事業活動における火災事故、火災、環境事故等を防止するため、災害の未然防止活動の推進、安全教育の徹底、基盤整備・維持活動の継続を行う。

（4）労働安全衛生水準の向上



事業活動における労働災害および健康被害を防止するため、労働災害の未然防止活動の推進、安全衛生教育の徹底、快適職場づくりの推進を行う。

（5）物流安全水準の向上



物流中の事故、災害を防止するため、物流事故や災害の未然防止活動の推進、物流安全教育を行う。

（6）化学物質・製品の安全性確保



化学物質や製品の物流、使用、廃棄等における事故や災害を未然に防止するため、リスクマネジメントによる先手管理を行う。また、取り扱うすべての化学物質と製品について最新の安全性情報を収集・整備し、必要に応じてこれらの情報を関係先に提供する。

（7）社会からの信頼向上



社会との共存共栄をはかるため、国際法、国内関係法令および社内規則類の遵守はもとより、環境・安全に関する社会の要請を把握し、事業活動に反映させる。また、環境・安全に関する取組について社会との対話に努める。

R C 活動推進体制

会議体

■ R C 委員会

委員長は社長、委員は役員で構成される R C 活動に関する最高意思決定機関です。ここでは、環境・安全・衛生管理に関する基本施策等の審議を行っています。（年 2 回開催）

■ R C 小委員会

委員長は統括管理責任者（環境安全担当役員）、委員は工場長、環境安全担当役員補佐、安全環境管理室長、火薬類製造保安責任者で構成されています。ここでは R C 委員会から指示を受けた事項の細部検討、環境・安全・衛生管理に関する詳細な検討を行っています。（年 2 回開催）

■ R C 推進委員会

委員長は事業所長、委員は各課の課長で構成されています。ここでは、R C 委員会及び R C 活動中期計画で決められた目標及び方策に従って具体的な計画を定めて R C 活動を推進しています。

■ 環境保全委員会

委員長は事業所長、委員は各部課長及び環境関連選任管理者で構成されています。環境マネジメントシステム（ISO 14001）の円滑な運用を目的として設置されています。工場全体の環境目標の決定、また環境活動の適切性・有効性の審議、見直しを行っています。

目標・計画

■ R C 活動中期計画書

R C 活動に関する方針を具体的に推進するために、当年度を含む 3 年間の目標、方策及び実施項目を定めた計画書です。作成は統括管理責任者が行い、R C 委員会での審議・承認を経て設定されます。年度ごとに見直しを行い、更新しています。

■ R C 活動実施計画書／報告書

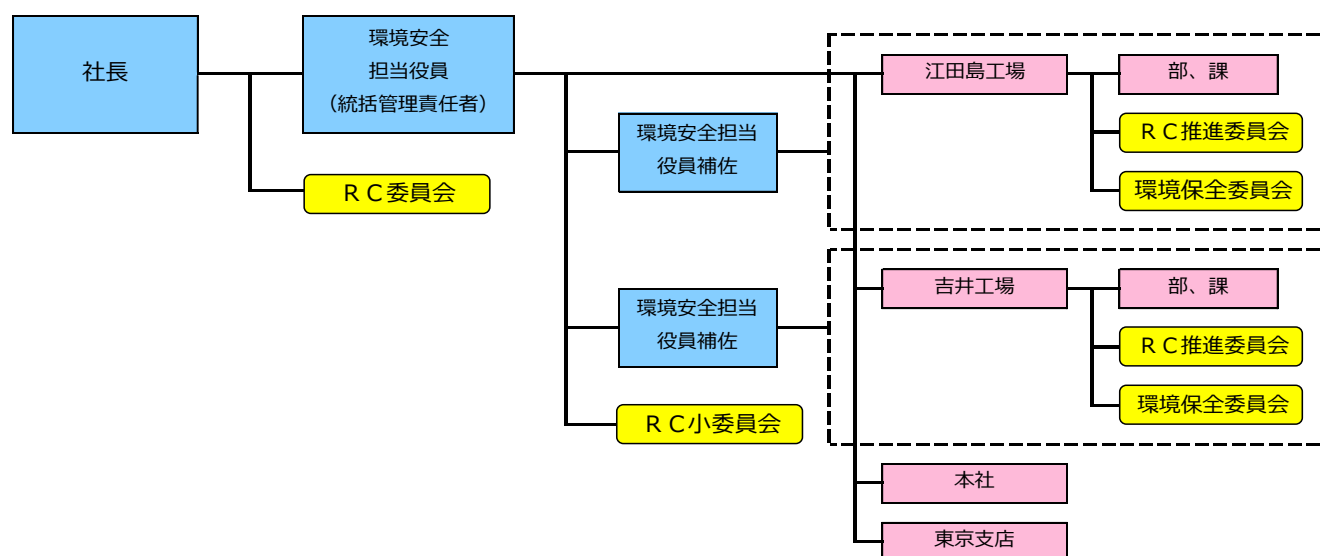
「R C 活動中期計画書」をもとに年度の具体的な実施項目及び目標を定めた計画書と、その結果に関する報告書です。各工場、事業所ごとに作成し、これにより R C 活動の進捗管理を行っています。

点検・監視

R C 活動の実施状況は、以下の査察、監査等によって点検・監視を行っています。

- ・ 社長環境・安全査察
- ・ 統括管理責任者査察
- ・ R C 内部監査
- ・ 環境マネジメントシステム内部監査
- ・ 環境マネジメントシステム外部審査

R C 活動の組織図



RC活動の実施状況

2025年度RC活動の目標・実績・評価

【自己評価】○：達成（95%以上）、△：一部達成（80-95%）、×：未達成（80%未満）

RCコード	項 目	2025年度目標	2025年度実績	自己評価
1.マネジメントシステム 共通事項	RC委員会開催	RC委員会・小委員会開催（4回）	4回（7月、9月、12月、3月）	○
	査察・監査	社長環境・安全査察（2回）	2回（10月、4月）	○
		RC内部監査（1回）	1回（2月）	○
	緊急事態への対応	総合消防訓練（1回）	1回（吉井：11月、江田島：12月、本社：11月、東京：11月）	○
		緊急注水装置操作訓練（9件：吉井）	9件（10月～4月の間）	○
		防火訓練（各地区隊）（3回：江田島）	3回（江田島）	○
2.環境保全	有害物漏洩	危険物・有毒物・未処理廃液等の海又は河川への流出による環境問題・事故ゼロ	0件	○
	省エネルギー推進（1t1kWh-使用量低減）	江田島・吉井の両工場合計で4,087kℓ（原油換算）以下	江田島・吉井の両工場合計で3,912kℓ（原油換算）	○
3.保安防災	事故・災害の防止	火災、危険物、毒劇物に関する事故ゼロ	1件（火工品製造中の発火事故）	×
4.労働安全衛生	従業員の安全衛生管理	労働災害（休業災害）ゼロ	1件（発火事故によるストレス症）	×
5.物流安全	物流事故撲滅	場内物流事故ゼロ	0件	○
		輸送業者への保安教育の実施	2回実施（火薬類の運搬を委託している各業者に実施 江田島1月、吉井8月）	○
6.化学品・製品安全	製品・化学物質の管理	S D Sの整備及び顧客への配布の実施	S D S整備・配布率 100%	○
		新規化学物質に対するリスクアセスメントの実施	実施率 100%	○
7.社会との対話	社会とのコミュニケーション	行事計画；本社6回、江田島11回、吉井30回	行事実績；本社6回、江田島11回、吉井33回	○

レスポンスブル・ケアコード（RCコード）

レスポンスブル・ケアを実践する際の基本的実施事項を定めたもので、以下の7つのコードに分類されています。

- 1）マネジメントシステム（以下の6つの活動をシステムとして統一的に運用することにより効率的に推進する。）
- 2）環境保全（化学物質の排出量並びに発生量を継続的に低減させることにより環境・安全の向上を図る。）
- 3）保安防災（事業所の火災、爆発及び化学物質流出事故を防止する。）
- 4）労働安全衛生（労働災害の撲滅、潜在的危険性の低減、快適職場の形成により職場の安全衛生を向上する。）
- 5）物流安全（従業員、輸送業者等並びに環境に影響を及ぼす化学品の流通時のリスクを軽減する。）
- 6）化学品・製品安全（製品の全ライフサイクルに渡ってリスクを管理する。）
- 7）社会との対話（環境・安全・健康にかかわる情報を地域社会に提供する。）

R C活動への取組

マネジメントシステム

環境・安全査察

環境・安全に関するR C活動が計画通りに行われ効果を上げているかを確認するため、社内規則類に基づいて社長による定期査察と統括管理責任者（環境安全担当役員）による査察を実施しています。査察では活動をよりよくするための指摘を行い、計画を立てて是正、改善することによって環境・安全の向上を図っています。



社長環境・安全査察
(江田島工場)

2025年度は、次のとおり実施しました。

■ 社長環境・安全査察

2025年10月（江田島工場、吉井工場）

2026年4月（江田島工場、吉井工場）

■ 統括管理責任者査察

1回（江田島工場）、1回（吉井工場）



社長環境・安全査察
(吉井工場)

R C内部監査

（一社）日本化学工業協会R C委員会の監査指針に基づき、全事業所を対象として統括管理責任者を責任者とするチームで実施しています。



RC内部監査
(江田島工場)



RC内部監査
(吉井工場)

監査結果は次年度のR C計画の目標等に反映させてR C活動の継続的な向上を図っています。

ISO14001外部審査

江田島・吉井両工場とも環境マネジメントシステムISO14001を環境保全活動の運用ツールとして活用しています。その一環としてシステムの適合性、有効性を確認するために、認証機関による外部審査を継続的に受審しています。

なお、適用される事業活動及び製品の範囲は右に示す通りです。

「認証機関：（公財）防衛基盤整備協会（DFEII）」

【江田島工場】

化学薬品（ニトロ化合物）、火薬類（火薬、爆薬及び火工品）及び医薬品（硝酸イソソルビド、ニコランジル）の設計・開発及び製造

【吉井工場】

宇宙ロケット用火工品の製造、防衛用火工品の設計・開発、製造、民需用火工品の製造、硝酸グアニジンの製造並びに消火剤、消火装置及びその構成部品の製造



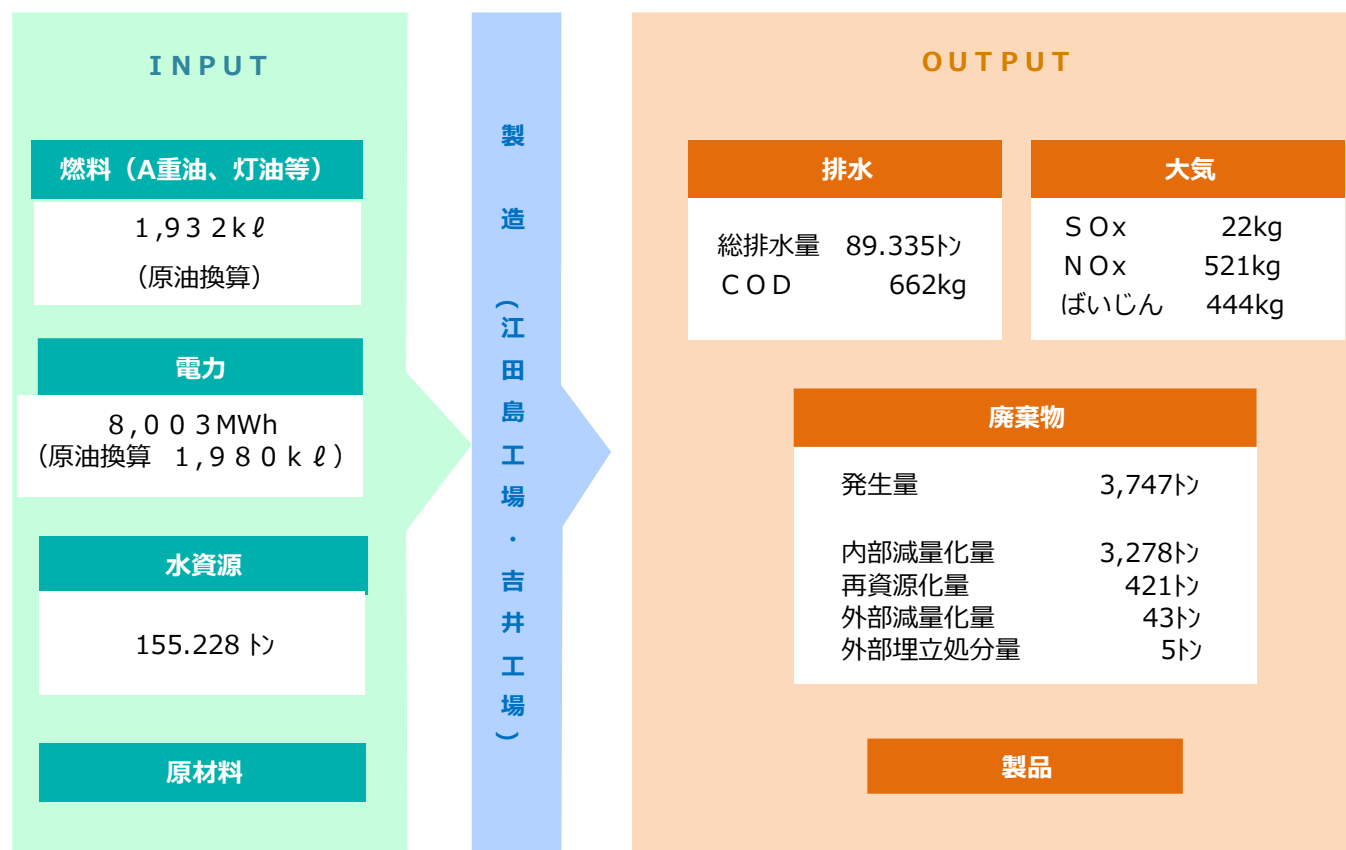
ISO14001外部審査
(江田島工場)



ISO14001外部審査
(吉井工場)

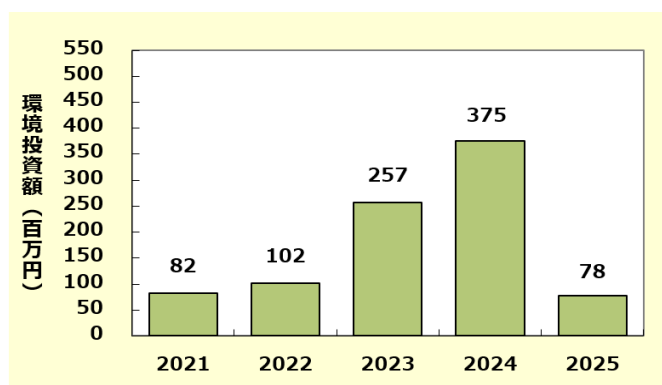
環境保全

主な環境負荷（2025年度実績）



環境投資

環境保全のため、継続的に投資を行っています。2025年度は売上高の0.46%でした。主なものは江田島工場ではチラー設備の更新、LED照明器具への更新、吉井工場ではLED照明器具、老朽化した設備を省エネルギータイプ設備へ更新しました。



■ 2025年度 環境投資額内訳（百万円）

工場名称	環境投資内訳								投資額 合計
	水質 公害対策	大気 公害対策	省エネ・CO ₂ 削減対策	産廃削減・ リサイクル対策	有害物質 排出削減	騒音・振動悪臭 公害対策	土壌・地下水 汚染対策	緑化対策 その他	
江田島工場	28.9	0.0	11.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.6
吉井工場	0.0	0.0	37.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	37.6
合計	28.9	0.0	49.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	78.2

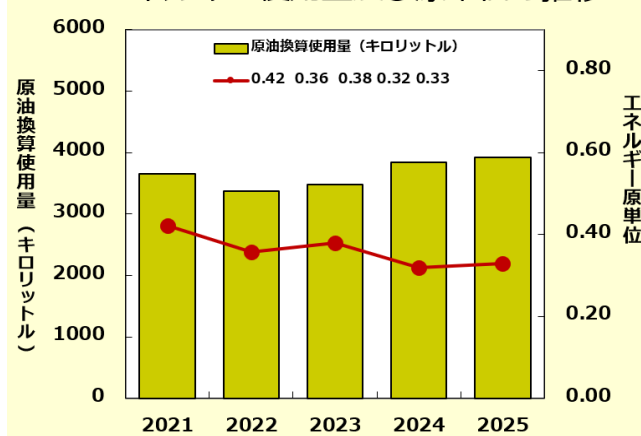
省エネルギー、CO₂排出量削減

エネルギー使用量の削減については、年初に、RC活動中期計画で事業所ごとに目標を設定し、省エネ活動に取り組んでいます。2025年度は、チラー設備の更新をはじめ、LED照明器具及び老朽化した設備の省エネルギー型設備への更新により、電気使用量の削減等に取り組ましました。

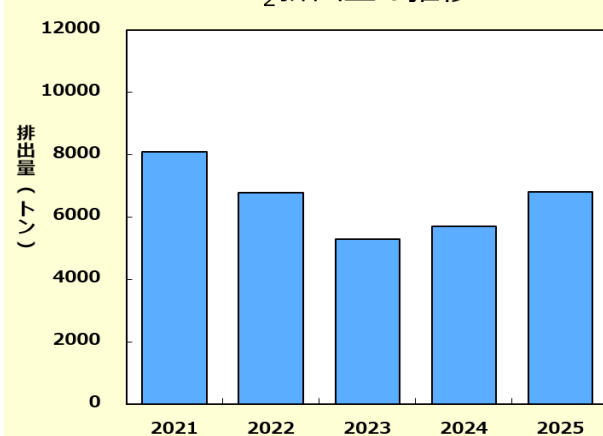
その結果、江田島・吉井両工場合計でエネルギー使用量は3,912 kℓ（原油換算）であり、

目標値の4,087 kℓ以下を達成できました。当社が排出する温室効果ガスは、ほぼ全量が重油等の化石燃料や電力の使用に起因するCO₂です。2025年度は、再生可能エネルギー由来の電力を使用することで、CO₂排出量を削減に努めてまいりました。今後も、省エネルギー機器への更新等による省エネルギー活動を行うとともに、ボイラー燃料の見直し等により、CO₂排出量の削減に取り組んでまいります。

エネルギー使用量及び原単価の推移



CO₂排出量の推移



化学物質の排出量削減（P R T R）

P R T R法（特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律）に基づいて調査及び届出を行っている物質のうち、

大気、水質、土壌への排出及び事業所外に移動している物質は、次表のとおりです。

■ P R T R対象物質の2025年度排出量実績

政令指定番号	物質名称	排出量				移動量
		大気への放出	水域への放出	土壌への放出	計	
243	ダイオキシン類	0.875 mg-TEQ	0.000 mg-TEQ	0.000 mg-TEQ	0.875 mg-TEQ	0.000 mg-TEQ
300	トルエン	0.405 トン	0.000 トン	0.000 トン	0.405 トン	1.347 トン
392	ノルマルヘキサン	0.000 トン	0.000 トン	0.000 トン	0.000 トン	0.000 トン
438	メチルナフタレン	0.068 トン	0.000 トン	0.000 トン	0.097 トン	0.000 トン
674	テトラヒドロフラン	0.000 トン	0.000 トン	0.000 トン	0.000 トン	0.000 トン
736	無水酢酸	0.011 トン	0.000 トン	0.000 トン	0.011 トン	0.000 トン

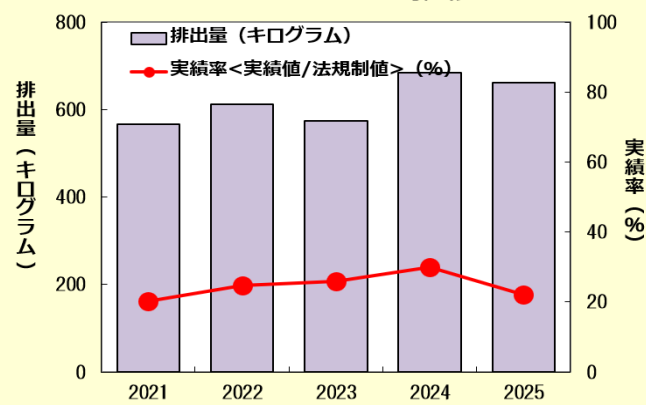
P R T R（Pollutant Release and Transfer Register：環境汚染物質排出・移動登録）とは「有害性の恐れがある多種多様な化学物質が、どのような発生源から、どのくらい環境中（大気、水質、土壌）に排出されたか（排出量）、あるいは廃棄物に含まれて事業所の外に運び出されたか（移動量）というデータを把握し、集計し、公表する仕組み」のことです。

大気汚染、水質汚濁の防止

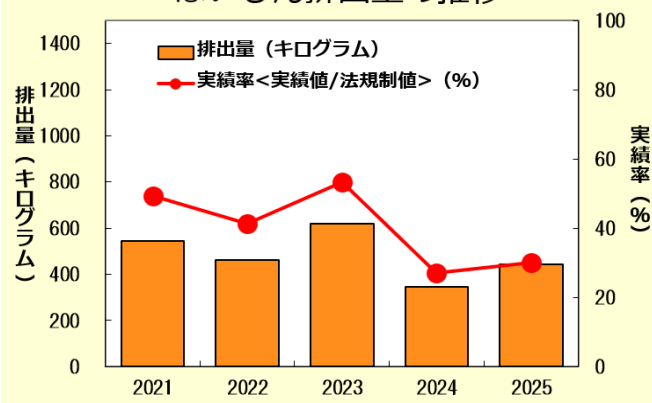
工場から排出する汚染物質は、各項目ごとに法的規制値を下回る目標値を設定して管理しており、2025年度に大気及び排水中に排出した汚染物質は、いずれも法的規制値を下回っています。

ばいじんについては、2021年度より、計画内の排出量を維持しており、2025年度も廃液発生を抑制し、排出量を低い状態で維持しています。

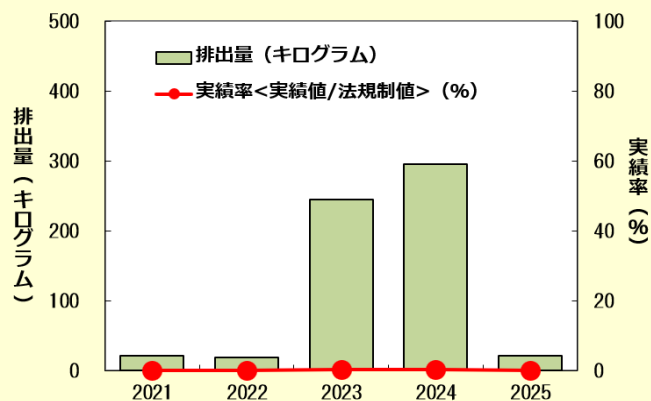
COD排出量の推移



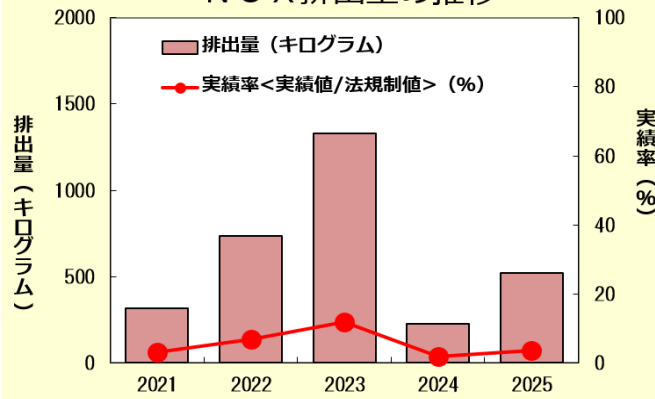
ばいじん排出量の推移



SOx排出量の推移



NOx排出量の推移



COD（化学的酸素要求量）とは

「有機物による水質汚濁の指標で、水中の有機物を酸化剤で化学的に酸化するとき消費される酸素の量」をいい、数値が高いほど水の汚染度が高いことを示します。

産業廃棄物の削減

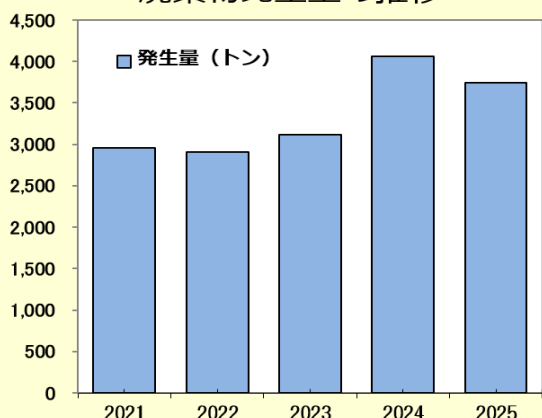
2001年度に産業廃棄物削減活動を開始して以来、排出量の削減、再資源化（リサイクル）量の向上、社外埋立処分量の削減に取り組んでいます。

排出量の削減については「2010年度までに対2000年度比で75%の削減」を目標に活動を開始し、2007年度に目標を達成しました。以降、排出量を増やさないための活動を徹底し、現在は中期計画目標を50トン以下として活動していますが、2025年度の排出量は48トンで前年比で80.8%に削減し、目標を達成することが出来ました。

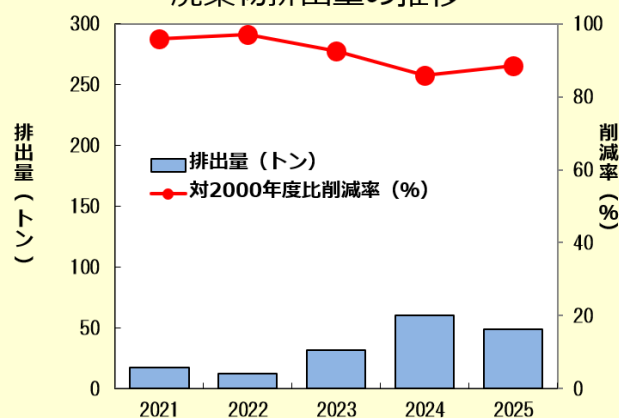
再資源化率については、中期計画目標を95%以上として分別の徹底と細分化を行いました。2025年度は89.7%で目標を下回りましたが、社外埋立処分量については2025年度は5トンで前年度実績4トンを上回りましたが、中期計画目標5トン以下を達成することが出来ました。

今後も廃棄物の分別、再資源化活動を徹底し、埋立処分量の削減を継続していきます。廃棄物の発生量、排出量、再資源化（リサイクル）量及び外部（最終）埋立量の推移は次のとおりです。

廃棄物発生量の推移



廃棄物排出量の推移



$$\text{削減率 (対2000年度比) (\%)} = \frac{2000\text{年度排出量} - \text{当該年度排出量}}{2000\text{年度排出量}} \times 100$$

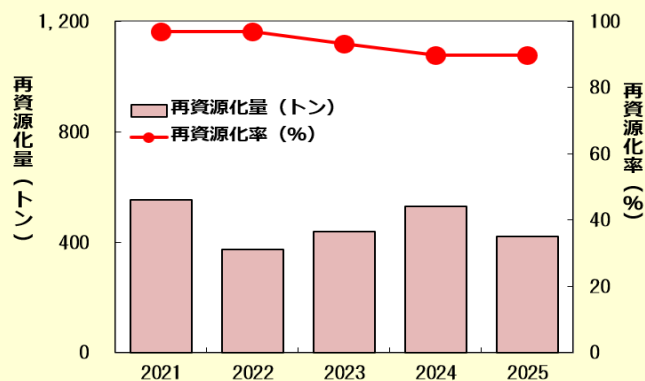
当社は「廃棄物排出量」を次のように定義して管理しています。

◆廃棄物排出量 = 廃棄物発生量 - (内部減量化量 + 再資源化量)

◆内部減量化量とは、生産活動で発生した紙屑・布きれ、廃火薬類、廃プラスチック、廃液（廃酸・廃アルカリ）等を社内で焼却・燃焼処理する量

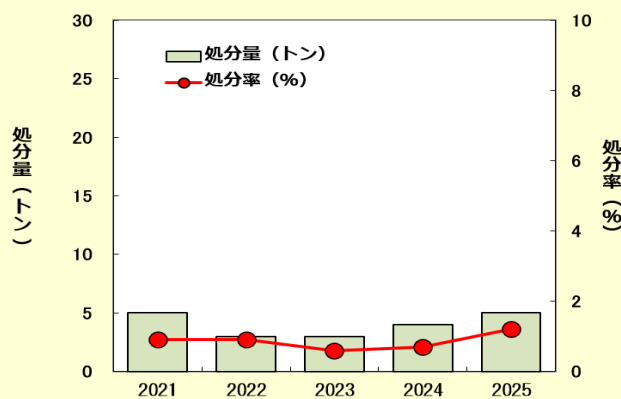
◆再資源化量とは、社内及び社外で資源として有効活用（リユース、リサイクル）される廃棄物（火薬類、紙、金属くず、ガラス瓶等）及び熱利用（サーマルリサイクル）される廃棄物（木くず、廃プラスチック等）の量

廃棄物の再資源化（リサイクル）量の推移



$$\text{再資源化率 (\%)} = \frac{\text{再資源化量}}{\text{廃棄物発生量} - \text{内部減量化量}} \times 100$$

外部（最終）埋立処分量の推移



$$\text{処分率 (\%)} = \frac{\text{外部埋立処分量}}{\text{外部再資源化量} + \text{外部減量化量} + \text{外部埋立処分量}} \times 100$$

RC活動への取組

保安防災

保安防災訓練

当社では、火薬類及び危険物による災害発生の防止を重点目標とし、各種防災訓練を毎年計画を立てて積極的に実施しています。訓練内容は、消防訓練、自衛消防隊の緊急対応訓練、防災訓練、危険工室の緊急注水訓練等です。特に、工場全体の消防訓練については、地元消防署のご

協力をいただいて実施しています。また、各月1回の「安全の日」を活用した保安教育や設備の新設・改造時の安全審査会の開催、設備の定期点検、HHK（ヒヤリ・ハット・気がかり）提案活動などを継続して保安の確保に努めています。



消防訓練（江田島工場）

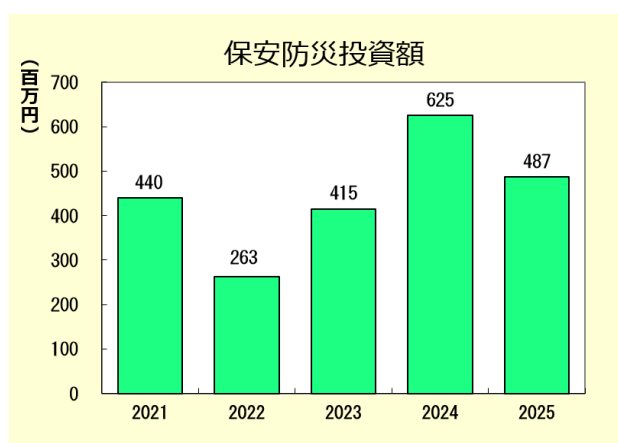


消防訓練（吉井工場）

保安防災投資

当社は火薬類を取り扱うため、安全の確保が最も重要と考え、「安全は全てに優先する」と理念を定め、保安防災に対する投資も積極的に行っております。

2025年度は土堤の崩れ防止対策、設備の老朽化対策、電柱の老朽化対策、場内樹木伐採、場内道路の整備等に売上高の2.9%を投資して保安・防災面の充実を図りました。



■ 2025年度 保安防災投資額内訳（百万円）

工場名称	保安防災投資内訳						投資額合計
	設備の 老朽化対策	労働安全・ 作業環境改善	爆発・火災・ 漏えい等対策	地震等 天災対策	基盤整備	その他	
江田島工場	256.1	18.2	2.9	0.0	0.0	54.5	331.6
吉井工場	145.1	10.1	0.0	0.0	0.0	0.0	155.2
合計	401.2	28.3	2.9	0.0	0.0	54.5	486.8

労働安全衛生

労働安全衛生活動

労働災害ゼロを目標に、HHK（ヒヤリ・ハット・気がかり）提案、KYT（危険予知訓練）、リスクアセスメント、指差呼称などをツールとして安全活動に取り組んでいます。

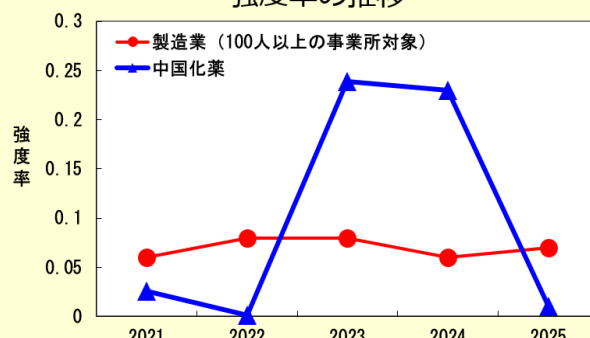
2025年度は、保安防災水準の向上を図るため、保安スタッフのレベル向上に努めてまいりました。具体的には、過去の火薬事故例について要因、対策及び得られた教訓を再検討し、現場へ

の展開を行うとともに、現場巡回を通じて異常を発見する力の向上に取り組みました。その結果、5S活動の実施方法、実施頻度及び課題が明確になるとともに、事故例を振り返り教訓を共有する活動についても一定の成果を上げることができました。今後もこれらの活動を継続し、保安防災水準のさらなる向上を図ってまいります。

度数率の推移



強度率の推移



度数率及び強度率とは、労働災害の安全指標の一つで次の式で算出されます。

$$\text{度数率} = \frac{\text{労働災害の死傷者数※}}{\text{延労働時間数}} \times 1,000,000$$

(※休業災害以上をカウント)

度数率は、災害発生頻度を表す指標

$$\text{強度率} = \frac{\text{労働損失日数}}{\text{延労働時間数}} \times 1,000$$

強度率は、災害の重さの程度を表す指標

健康管理

従業員の心身の健康管理については、産業医による衛生講話、セクハラ・パワハラに関する教育及び苦情・相談窓口の設置、健康に関する集合教育等を行っています。メンタルヘルスケア

については上司による面接、社外セミナーへの参加、自己診断等を毎年行っています。このような活動により、従業員の心と体の健康維持・改善に取り組んでいます。



産業医の動画による衛生講話（江田島工場）



産業医による衛生講話（吉井工場）

ＲＣ活動への取組

物流安全

危険・有害性を有する製品の物流（輸送、荷役、保管）における事故を防止するため、次のような活動を行っています。

- 輸送業者（協力会社）への法規制・取り扱う火薬類の性質等に関する定期的教育の実施
- 運搬時のイエローカード携行の確認
- 物流事故時の緊急連絡網などの対応体制の整備
- 工場内のハザードマップの作成

イエローカードとは

「輸送する化学物質の性質、危険性及び安全管理上の注意事項に加えて緊急時の措置方法、通報・連絡先が記載されているカード」のことです。

万一緊急事態が発生した時は、このカードを見て適切な措置をとることによって、災害の拡大や二次災害を防止します。

ＲＣ活動への取組

化学品・製品安全

化学品・製品による災害の防止

作業者が、製造工程において新規品、化学品及び製品を安全に取り扱うことができるようにするため、取扱い前に、注意が必要なアイテムに

ついてリスクアセスメントを実施し、結果に基づいて作業環境の改善を行っています。

製品の安全確保と品質保証

当社は、研究開発、技術開発において、より安全で環境負荷の少ない製品の開発に努めています。この一環として、吉井工場では２００７年度に品質マネジメントシステム（ＱＭＳ）のＩＳＯ９００１及びＪＩＳＱ ９１００、江田島

工場では２０１２年度にＩＳＯ９００１、２０２１年度にＪＩＳＱ ９１００の認証をそれぞれ取得しました。また、認証範囲を購買部門、営業部門にも広げ、全社をあげて品質保証に努めています。

関係者への環境・安全情報の提供

当社は、お客様に安心して製品を使用していただくために製品ごとにＧＨＳに対応したＳＤＳ（安全データシート）を作成して配布しています。また、社内では従業員、その他関係者が安

全に化学物質を取り扱うため、購入品等の化学物質のＳＤＳを入手し、データベース化して情報の共有化を図っています。

ＧＨＳ（化学品の分類および表示に関する世界調和システム）とは

世界的に統一されたルールに従って、化学品を危険有害性の種類と程度により分類し、その情報が一目でわかるよう、ラベルで表示したり、安全データシートを提供したりするシステムのことです。

江田島工場 RC活動方針

中国化薬（株）江田島工場は、火薬類の製造を主とした事業活動を行っており、安全の確保のみでなく環境保全、健康の確保を主要課題であることを確認し、（一社）日本化学工業会の日本レスポンシブル・ケア協議会の「レスポンシブル・ケア・コード（基本的実施事項）」に基づく各活動について環境保全と安全及び健康の確保の観点から方針を定め、着実かつ継続的に活動を行う。

1. マネジメントシステム

事業活動において、環境の保全、安全および健康の確保に努め更に維持向上させるため、法的及びその他の要求事項を明確にし、これを遵守するとともに、具体的な目標、方策を定めて全従業員に周知徹底し、実行する。

2. 環境保全

当工場は、瀬戸内海に面している等の立地条件を認識し、その事業活動において生じる環境負荷の低減を図るため環境方針を定め、環境マネジメントシステムを維持し、継続的な改善を行う。

3. 保安防災

事業活動における事故や労働災害を未然防止するため、科学的知見を基に過去の事例を解析し、現状の見直し、適切な対策を講じ、事故・労働災害ゼロを目指す。

また、安定操業及び保安防災技術の向上、基盤整備に努め、従業員と地域社会の安全を確保する。

4. 労働安全衛生

作業環境の改善と設備の本質安全化に努め、労働災害の防止を図り、快適で働きやすい職場づくりに努めるとともに、健康保持・増進を支援する。

5. 物流安全

HHK提案、リスクアセスメントにより工場内での物流事故ゼロを目指す。

また、運搬業者へのイエローカード携帯を指導する。

6. 化学品・製品安全

製品や取扱い物資の環境・安全に関する情報を整備し、その安全な使用と取扱いのために必要な情報を作業者及び顧客に提供する。また、環境・安全・健康に、より配慮した製品及び技術の開発・導入に努める。

7. 社会との対話

地域の各種行事、ボランティア活動などに積極的に参加するとともに、環境・安全の活動について積極的に情報を公開し、コミュニケーションを重ねることにより、社会の対話に努め、理解と信頼の向上を図る。

2013年10月1日

中国化薬（株）江田島工場長

サイト環境活動

江田島工場の活動

環境方針

■ 環境方針

【人にやさしい環境作りをめざして】

■ 基本指針

中国化薬(株)江田島工場は、火薬、爆薬、火工品及び医薬品の製造から出荷までの生産活動を業務としています。当工場は、瀬戸内海に面した立地条件を認識し、その事業活動において生じる環境負荷の低減を図ります。

■ 行動指針

1. 環境関連の法令、条例及び当工場が同意するその他の要求事項を把握し、これを順守するとともに事故の未然防止及び汚染の予防に努めます。
2. 当工場は、全ての事業活動において持続可能な資源、気候変動、瀬戸内海を含めた生物多様性・生態系への環境等を認識したうえで環境保護を推進するため、環境影響評価を行い、著しい環境側面を特定することによって環境目的及び環境目標を設定し、次の活動を重点的に取り組みます。
 - (1) 排水の水質・水量の管理
 - (2) 省資源・省エネルギーの推進
 - (3) 有害物質の管理
 - (4) 廃棄物の再利用の促進
3. 環境マネジメントシステムの継続的改善を行うとともに、環境目的及び環境目標の定期的な見直しを行います。
4. この環境方針は従業員及び構成員に対し周知できるように教育と啓蒙活動を行います。
5. この環境方針は社外に公表します。

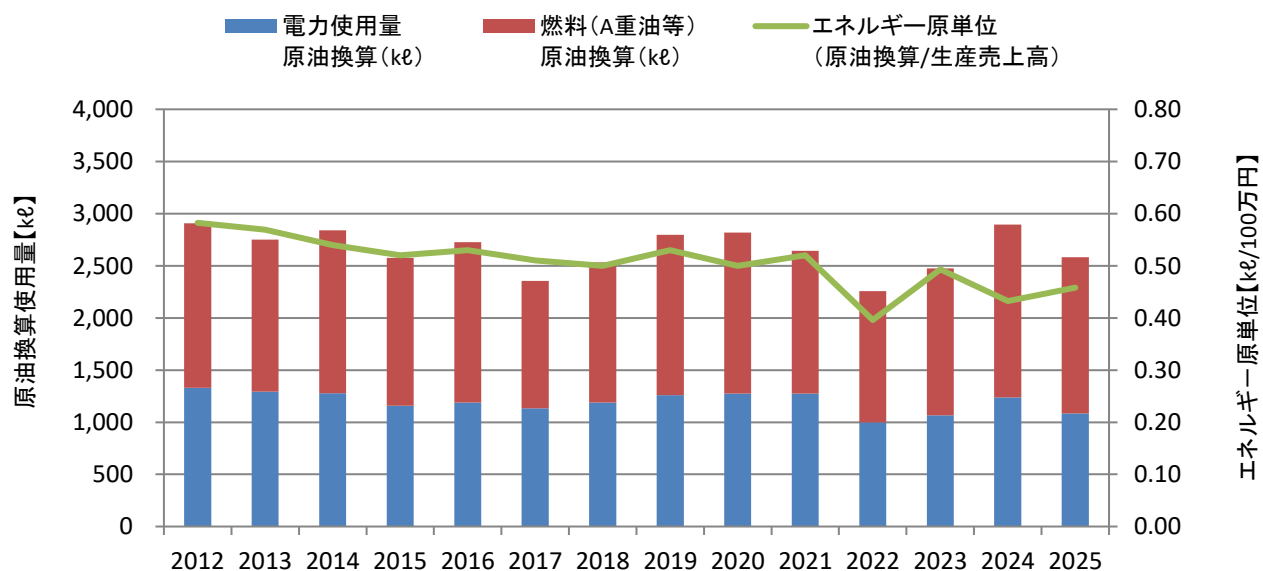


江田島工場長 原田 洋一郎

サイト活動

■ 省エネルギー活動

江田島工場は第一種エネルギー管理工場（原油換算使用量3,000kℓ以上）に指定されていますが、省エネルギー活動を継続することにより、2012年から14年連続して原油換算使用量3,000kℓ未満を達成しました。



■ 環境・安全活動

江田島工場は、環境・安全の意識高揚のため、様々な活動を行っています。



ISO14001外部審査を受けました。(2025.7.1-3)



社長環境安全査察の様子です。(2026.4.13-14)



社外講師による、健康促進イベントを実施しました。(2025.12.5)



RC内部監査の様子です。(2026.2.12-13)

■ 地域社会とのつながり

江田島工場は、地域の委員会、諸会合への参加、地域イベントへの協賛を積極的に進め、地域社会とのコミュニケーションに努めています。



天応中学校体験学習を行いました。(2025.8.20)



江田島工場で献血を行いました。(2026.4.3)



江田島消防本部のご協力により合同訓練を実施しました。(2026.2.6)



江田島消防本部のご協力により新入社員研修を行いました。(2026.4.10)

吉井工場 RC活動方針

中国化薬（株）吉井工場は、火薬類の製造を主とする事業活動において、安全の確保のみならず、環境保全および従業員の健康確保を重要な経営課題として位置付けている。この認識のもと、（一社）日本化学工業協会 日本レスポンシブル・ケア協議会の「レスポンシブル・ケア・コード（基本的実施項目）」に基づき、環境・安全・健康の各側面から方針を定め、継続的改善を図りながら着実に活動を推進する。

1. マネジメントシステム

事業活動において、環境の保全、安全および健康の確保に努め、その維持・向上を図るため、法的及びその他の要求事項を明確にし、これを遵守する。また、具体的な目標および方策を定め、全従業員に周知徹底するとともに、確実に実行する。

2. 環境保全

当工場は、事業活動に伴い生じる環境負荷の低減を図るため、環境方針を定める。そのうえで、環境マネジメントシステムを維持するとともに、継続的な改善を推進する。

3. 保安防災

事業活動における事故及び労働災害を未然に防止するため、科学的知見に基づき過去の事例を解析し、現状の見直しを行うとともに、適切な対応を講じることによって、事故・労働災害ゼロを目指す。また、安定操業の確保及び保安・防災技術の向上、並びに基盤整備に努め、従業員及び地域社会の安全を確保する。

4. 労働安全衛生

作業環境の改善及び設備の本質安全化に努め、労働災害の防止を図るとともに、快適で働きやすい職場づくりを推進する。また、従業員の健康保持及び増進を支援する。

5. 物流安全

HHK提案及びリスクアセスメントの実施により、工場内における物流事故ゼロを目指す。また、運搬作業者に対し、イエローカードの携帯を徹底する。

6. 化学品・製品安全

製品や取扱い物資の環境・安全に関する情報を整備し、その安全な使用と取扱いのために必要な情報を作業員及び顧客に提供する。また、環境・安全・健康に、より配慮した製品及び技術の開発・導入に努める。

7. 社会との対話

地域の各種行事、ボランティア活動などに積極的に参加するとともに、環境・安全の活動について積極的に情報を公開し、コミュニケーションを重ねることにより、社会の対話に努め、理解と信頼の向上を図る。

2024年10月1日

中国化薬株式会社 吉井工場長

吉井工場の活動

環境方針

■ 環境方針

「社会に調和した職場環境をめざして」

■ 基本指針

中国化薬（株）吉井工場は、火薬類を主体とした事業活動を行っており、その活動が地球環境と密接に関わりあっていることを認識し、吉井工場の全ての領域で、自然環境との調和を図り、地域社会の期待と信頼にこたえる環境先進企業を目指します。

■ 行動指針

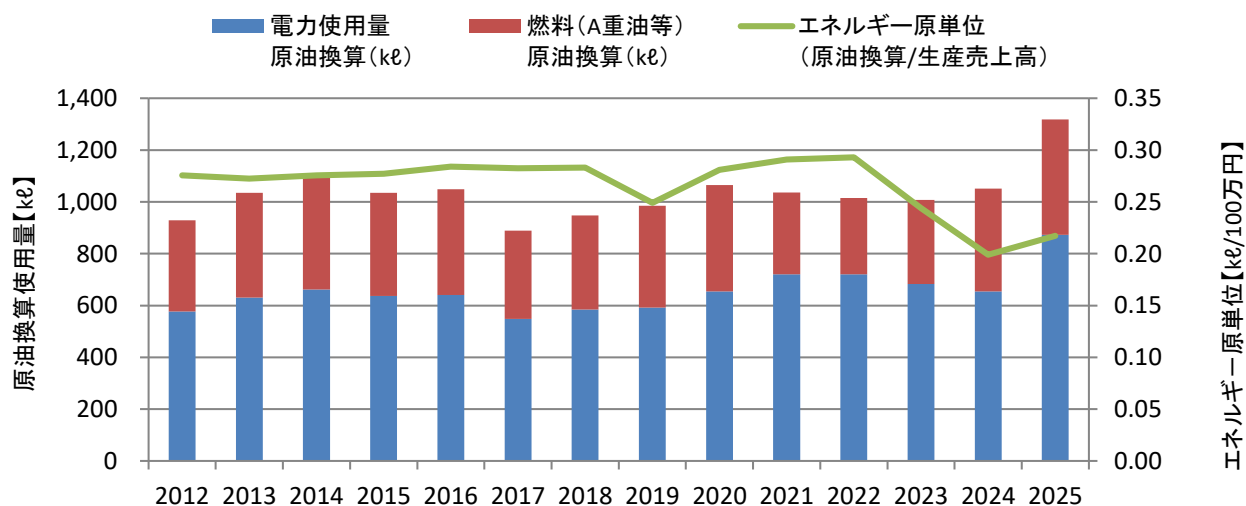
1. 私たちは火薬類による災害が著しい環境破壊につながることを認識し、これの予防に努めます。また、吉井工場周辺の自然環境や地球温暖化が環境に及ぼす影響並びに環境破壊が生物多様性に及ぼす影響を認識し、以下の活動のもとに汚染の予防と環境保全に努めます。
 - （1）大気、水質等の法規制及び吉井工場が同意するその他の要求事項を順守します。
 - （2）火薬類が付着した廃棄物を外部に出さないという信念のもと、4R（Reduce, Recovery, Reuse, Recycle）の推進により、廃棄物排出量の削減に努めます。
 - （3）資源及びエネルギーを使用して事業活動を行っていることを認識し、その有効利用を通じ、二酸化炭素排出量の削減に努めます。
 - （4）有害化学物質の無害物質への転換、使用量の削減により、環境に配慮した生産活動を行います。
 - （5）グリーン購買を推進し、環境にやさしい物品の購入に努めます。
2. 工場美化運動及び地域奉仕活動を通じて自然環境との調和、地域住民との融和を図ります。
3. 定期的な環境マネジメントシステム監査及びマネジメントレビューにより、システムの継続的改善を図ります。

この環境方針は、吉井工場の従業員及び吉井工場で働く全ての人々に周知徹底を図るとともに、会社ホームページに掲載し、一般の人々が入手可能にし、外部の利害関係者から要求があった場合は、すみやかに提供いたします。

サイト活動

■ 省エネルギー活動

吉井工場はエネルギーの効率化・無駄の排除を積極的に実施し、継続的な省エネルギー活動を推進しています。その結果、RC活動を開始した2003年以降、エネルギー原単位は低いレベルを維持してまいりましたが、2025年は、売上の増加及びそれに伴う製造工程及び製造設備等の増加によりエネルギー使用量が増加しました。



■ 環境・安全活動



ISO14001外部審査を受審しました。(2025.3.3-4)



池への油の漏洩を想定した緊急対応訓練を毎年実施しています。(2025.7.4)



安全道場で危険を体験し、安全作業の大切さを学んでいます。(2025.10.3)



万一の災害に備え、救護訓練を毎年実施しています。(2025.11.7)

■ 物流安全



万一の災害に備え、放水訓練を毎年実施しています。(2025.11.7)



火薬類の運搬を安全に行うため、フォークリフトの技能訓練を実施しています。(2025.10.3)

■ 地域社会とのつながり



ボランティアとして年3回献血に協力しています。(2025.7.4)



定期的に工場周辺の道路・河川・神社等の清掃活動を実施しています。(2025.6.6)

本報告書に関するお問い合わせは、弊社ホームページのお問い合わせフォームをご利用ください。

<https://www.chugokukayaku.co.jp/contact/>

管理本部総務管理部総務課

〒737-8507 広島県呉市天応塩谷町1-6

TEL 0823-38-1111、 FAX 0823-38-7128